

2020年7月20日(月)

あんなに無かったマスクもあちこちに出回るようになり、街中マスク姿だらけ・・・「猫も杓子もマスク姿」と言いたいところだが、さすがに野良猫達はマスクをしていないので、その諺はちよいとしっくりこないね。

あっ、ちなみに「猫も杓子も」って言葉の意味は色々な説があるそうだけど、「ニャーオー」の猫や、「しゃもじ」の「杓子」の事ではなく、

「禰子(ねこ)も釈氏(しゃくし)も」

って説がありまして、「禰子(ねこ)」というのは神社で働く人の位(くらい)、つまり「神様に仕える人」って事で、一方の「釈氏」とはお釈迦様の事だから、「神に仕える者も、仏に仕える者も」という事を言っている。

また別の説で、

「女子(めこ)も弱子(じゃくし)も」というのもありまして、こちらは「女性も子供も」という意味合い。

つまり、どちらも「誰でもかかれでも」って事だそうです。

あとは文字通りの猫も杓子ってのもちゃんどありまして、「猫」はどこにもいるし、「杓子=しゃもじ」はこの家庭でもほぼ毎日使うので、「ありふれた」という意味あいから、「誰でもかかれでも」という事に繋がるらしいです。

どれが正しい「猫も杓子も」の語源かは最初にこの言葉を使い始めた大昔の人達に聴いてみなきゃ分からないからなんとも言えないけれど、まあそれはさておき、ウロウロしている野良猫を見てみると、こんなご時世でもマイペースで自由気まま。

「お前はマスクしなくて、呑気でいいよなあー」と、家の近所でいつも見かける「ゴンにゃん」(私が勝手に名付けた)を覗いて羨ましく思う。人間もマスクしないでもいい「日常」が早く来るといいですね。

そのマスク姿で思い出したけど、そういえば今年は花粉症ってどうだったのかな?いつもならば、2月あたりから花粉症の話題がはじめて、3月、4月、5月と言えば、天気予報の時に「花

粉飛散予報」みたいな事を毎日行っていて、「非常に多い」「多い」「普通」「少ない」など凶柄解説付きで毎日ニュース等の話題の中心だった。

コマーシャルでも「花粉症一色」ってのが日常だったのに、今年は花粉症の話題はほぼ聞かなかったし、世の中みんながマスク姿だったので、花粉症だかどうなんだかも全然意識する事はなかったのだが、やはり花粉はすぐく飛んでいたんですね?

まあ・・・飛ぶわな・・・花粉は。毎年重大問題となっている花粉症が打ち消されるほど、コロナ騒動は尋常じゃないってのを物語っております。すな。

前にも書いたかもしれないが、私はマスクをする習慣がなかったので、コロナ騒動が始まったばかりの頃は、マスクをつけるのにかなり抵抗があったけれど、今では服を着るのと同じ感覚でマスクも着けられるようになった。ただ・・・眼鏡が曇るのがなんとも煩わしいし、最近暑は暑いし・・・マスクをしていると熱中症になるリスクも増えるみたいだし・・・

ブツブツ言うついでに、東京モンは旅行するのも長距離ドライブも、ためらう夏となってしまったし・・・芝居を行うのも、制約だらけで一体全体どうしていいのやら?だし・・・

モヤモヤがなかなか晴れませんなあ。そんな時は、ズーっと着けているマスクを人があまりいない場所で外し、大きな深呼吸を3回するのです。

部屋の中よりも外で、出来ればちょっとした自然の中なんかいいですよ。

私は休みの日の早朝、家の近所の荒川の土手に登り、ゆったりと流れる河に向かってマスクを外して、大きく大きく深呼吸をするんですわ。

たったそれだけなんだけど、「よっしゃ!まあー頑張ってみるか。」って気分転換になるのです。

土手がなきや、早朝の神社でもお寺でも公園でもいいので、マスクを外して大きな深呼吸を3回すると、なんかいい感じの空気が身体に入ってきます。

こうして、いい感じの空気を身体に入れて、心も身体も健康で過ごす事を、今は心掛けていますのであります。

